

古寺山くらの10年を振り返って—「これまで」と「これから」

渡辺昌造・斎藤豊和 (古寺山くら)

はじめに

古寺山 (ふるてらやま) という山をご存知の方は、おそらく神戸市内、いや地元の方ですら少ないのではないかと思います。神戸市北区の唐櫃 (からと) に住む有志で始まった地元の山をめぐる集い。いつのまにか10年が経ちました。これまで、唐櫃を起点にして歩いて登れる山から、大池・花山・谷上の周辺、丹生山田の里へと、北神地区の自然と歴史を巡ってきました。神戸電鉄粟生線方面、三田方面そして多田源氏ゆかりの川西方面へと広がりを見せています。これから原点に戻るのか、さらに広がっていくのか、どうなるのか楽しみです。

古寺山ってどこ？

位置—神戸市北区唐櫃(からと) のほぼ南方。西と南は六甲有料道路、東は逢山峡に囲まれた約1.5 km四方の山域。東方の逢ヶ山と並んで唐櫃の裏山。北六甲ハイクの玄関口でありながら地元の人もあまり登らない静かな山。

歴史—山頂には法道仙人が開いたとされる多聞寺があり、平清盛が厚く保護したが、源氏に焼き討ちされた。’70年の調査で礎石が確認。本堂跡や井戸跡、護摩壇後の木札があり、地形などから秘められた歴史に思いめぐらせながら道をたどる。

展望—山の周囲さまざまな場所からルートがあり、隠れた名所が多い。山頂近くの展望石からの眺望は北神随一。北は丹波、西は播磨灘まで見渡せる。正月のぜんざい、初夏のカキノハグサ、とくらの憩いの場所。

古寺山くらの歩み

- 2006年春 唐櫃台の理髪店に集う客仲間で、地元山歩きを始める(最初は男性6人の集まり)。
- 2007年5月 植物に詳しい女性が参加、希少植物への関心が広がる。逢山峡でBBQ始める。
- 2008年4月 斎藤「古寺山・多聞寺埋もれた歴史」執筆、会員へ配布。2009年11月森林植物園に展示される。
- 2009年10月 山田町六條八幡宮流鏝馬(やぶさめ)初めて丹生山田の文化に触れる。
- 2010年1月 会の名称を「古寺山くら」と定める。
10月 地元唐櫃の古民家を訪ねる。
- 2011年5月 小河(おうご)農村歌舞伎見学、9月川西市満願寺・多田神社へ初の遠征(川西市文化財ボランティアガイドとのつながり)
- 2012年1月 「古寺山を語ろう！」と題し、地元で講演会開催。
5月 地元の歴史を知る方の案内で下唐櫃の歴史散策。大池、花山、谷上から参加広がる。
- 2013年4月 「唐櫃の歴史」第2回講演会開催。
- 2015年 神戸市社会福祉協議会の団体登録。
- 2016年1月 例会100回、10周年の記念誌作り。



写真1 古寺山



写真2 地元講演会

2017年1月 10周年の記念誌発行。

地域の歴史・文化

昔からの唐櫃の歴史を知る人、地元に残る野仏を調べている人、かつて鉱山があったころのこと、生の声を現地で聴く。また会員自らの地域の自然と歴史について地元の人たちへ発表し、同じ関心を持つ人との交流が広がった。

唐櫃には今も残る神社仏閣、茅葺き民家、遺跡があり訪ね歩いた。昔の人の書き残した資料や埋もれている資料を掘り出して残すことも行った。

人の広がり地域が広がりになり、丹生山田の里に受け継がれている農村歌舞伎や六條八幡宮の祭事などの地域文化に触れた。さらに地域文化を守る活動のグループとの交流につながっている。



写真3 地元古民家を訪ねる

地域の自然・景観

くらぶで毎年、時期が決まっているのはカキノハグサ、テイショウソウの花の咲く時期。会のはじまりは地元自慢のホタルを見る会だった。四季折々の自然にあわせて、例会の場所を決めた。ごく普通の里山にも生息地が破壊されて希少となっている動植物がある。その存在とその環境を知るために、カキラン、カスミサンショウウオ、モリアオガエルなどの生息地を訪ねた。下唐櫃・上唐櫃には昔の農村風景がいまも残る。北六甲や丹生山系はハイカーも少なく、静かに豊かな自然を楽しめる。小さいながらも美しい滝が多く、自然度の高い池や湿地も見られる。気がつけばなくなってしまうことのないように、こうした知られざる場所を記憶にとどめる。

これまでの活動内容

1. 運営

月1回（原則第三日曜日）、事前連絡なし、飛び入り大歓迎、ロコミでの広がり。
参加費なし（交通費実費）、相互協力・自発的参加、ボランティア保険に加入。
地域の自然と歴史に関心をもつ。

2. 参加者

男性5名でスタート。のべ約60名（男女ほぼ同数）が参加した。
2012年に24名の新規参加、女性の加入が急増。

3. 活動内容

地元の山歩き → 北神地域、さらに川西、まち歩きへの展開。
月1回の定着化、自主的有志の取り組みはじまる。
地元の個人、他の文化グループとのかかわりが増える。

これからの展望

1. 運営

自主的自発的運営、相互協力の精神の継続。

2. 参加者

地域に発信すると、広がりは大きくなる。

3. 活動内容

地域の自然と歴史の現状と啓蒙普及へのかかわりの模索しながら、社会貢献、公的助成の検討を行い、これからも「地域の自然と歴史は地域の宝」をモットーに続けていく。